

なるほど

ぶつじ 仏事

第12回

法名



じょうどしんしゅうほんがんじはびんごきょうく
浄土真宗本願寺派備後教区
じぎょうすいしんいんかい
事業推進委員会

しゃくしんらん 釋親鸞の名のり

親鸞聖人は、ひとり仏道修行に励む清僧（せいそう）ではなく、阿弥陀如来のはたらきによって救われてゆく生き方をされました。

日々の生活に追われ、仏道修行や戒律と無縁な民衆と共に、仏法（ほとけさまのみおしえ）を生活の中心に置き、生涯を尽くされたのです。

その生きざまの表明が「釋親鸞」の名のりです。



ほうみょう
法名？
かみみょう
戒名？

「法名（ほうみょう）」も「戒名（かみみょう）」も、ともにお釈迦様の教えに帰依（※三帰依→中面「おかみそりは」参照）する仏弟子としての名前です。

「戒名」は、厳格な規律（戒律）を守って仏道修行する人びとの名なのです。

これに対し、浄土真宗は、厳しい戒律を守って仏道修行を積むことのできない私たち凡夫が、阿弥陀如来の本願のはたらきによって救われる教えです。その御法（おみのり＝仏法）を聞いていく身となり、御法に自らの生き方を問うていく名が「法名」です。

浄土真宗は



ほうみょう
法名！



き きょうし き 帰敬式を受式し

帰敬式とは、阿弥陀如来・親鸞聖人の御前で浄土真宗の門徒としての自覚をあらたにし、本願寺ご住職（ご門主）より「おかみそり」を受け、法名が授与される大切な儀式です。



ほうみょう 法名をいただき

法名は、お釈迦様のお弟子となって仏法を聞き、この人生を生きていきます、という決意を表す名のりです。ですから必ず法名にはお釈迦様の「釋」（釈の旧字体）がつきます。



新たな人生の出発を

法名をいただくことは、仏法をよりどころとする新たな人生の始まり、誕生を意味します。朝夕の勤行は勿論、お寺の法座にすすんでお参りし、お念仏申す聞法生活の始まりです。



おかみそりは

帰敬式は、三帰依文を唱えた後、ご門主より剃刀が頭にあてられることから「おかみそり」とも言われます。三帰依文とは、私たちを導いてくださる**仏**（ほとけさま）**法**（みおしえ）**僧**（みおしえに生きる人々）の三宝をこころのよりどころとして敬うことを誓うご文です。

生前に

法名は亡くなった方の名前ではありません。生前できるだけ早い機会に帰敬式を受けたいものです。しかし、生前に法名をいただくご縁がないままお亡くなりになった場合は、所属寺のご住職がご門主に代わり、おかみそりを行い、法名を授与することになります。

受けましょう

帰敬式（おかみそり）は、本山（西本願寺）で受式できます。基本的に毎日、午前と午後にそれぞれ一度ずつ行われます。また、全国の別院や教務所等で受式することもできます。詳細は、所属寺院のご住職や別院・教務所にお尋ねください。